

「心を育む」ための5つの提案 ～日本の良さを見直そう！～

平成21年 2月3日
文部科学大臣 塩谷立

携帯電話に代表される情報化の急速な進展等に伴い、人と人の絆の弱体化や、家庭や地域の教育力の低下など、日本に昔からあった良さが次第に失われつつあると感じています。

いま、社会生活を営んでいくための基本的倫理観や自制心・自立心を育てるなど、「心を育む」取組を重視していく必要があると考えます。

4月から先行実施される新しい小・中学校の学習指導要領では、道徳を充実させ、公共の精神や伝統・文化を重視するとともに、体験学習を通じて感動を覚える多くの機会を設けます。

しかし、「心を育む」取組は、大人も子どもも地域も一緒に、社会総がかりで実行することが必要であり、この度、5つの具体的な提案をします。

1 「読み書きそろばん・外遊び」を推進する。

～「早寝早起き朝ごはん」と共に、生きる基礎を養う活動を積極的に行おう！～

2 校訓を見つめ直し、実践する。

～先生と子どもが一緒になって、各学校にある校訓を具体化する取組を継続的に実践し、地域でこれを応援しよう！～

3 先人の生き方や本物の文化・芸術から学ぶ。

～心に残り、人生の模範となる先人の話題を、道徳の教材に取り入れよう！
本物の文化・芸術に触れ、また、人生の先輩や様々な職業の話を楽しもう！～

4 家庭で、生活の基本的ルールをつくる。

～家庭は全ての教育の出発点。携帯電話の使い方など、家庭で基本的なルールづくりを行おう！～

私が提案する親と子の約束①挨拶しよう。②みんなと話そう。③手伝いをしよう。

①いじめるな。②嘘をつくな。③人に迷惑をかけるな。

5 地域の力で、教育を支える。

～学校支援地域本部の活動などを通じて、地域ぐるみで子どもを育てる環境をつくらう！～